

## 助成事業実施報告書

団体名 日野の水車活用プロジェクト

代表者氏名 多田 啓介

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

日野の水車活用プロジェクト～日野の用水路で水車を回そう!～

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

日野市には都内一の長さを誇る用水路があり、昭和初期までは55基の水車が活躍していました。2010年、日野の歴史や魅力を再発見する、日野市と法政大学の公学連携事業「日野塾」が実施されました。それに参加した市民らが、1995年に復元された向島用水路の水車が長年使用されていない事実を知り、市民の手で地元の歴史を学習し、環境教育につなげる場として整備・活用していこうと、2011年7月に活動をスタートしました。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

水車は自然エネルギーを利用した動く精密機械です。水車を活用する事で、モノ作りとしての匠の技や、動力のしぐみ、米の作り方を学習し、地域資源である用水路を活用した小水力発電の可能性も探ることができます。その水車を動かすためには、用水路が不可欠です。かつて多摩の米蔵と言われていた日野の原風景である田んぼは減少の一途で、用水路もその存在価値が問われるようになってきています。水と共に発展してきた日野の歴史を知ることが、用水路と田んぼの保全活動にもつながります。水車を活用しながら、その価値を後世に伝えたいと活動しています。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

## ①向島用水親水路の水車を活用したイベントの実施

水車を使った精米と・粳すり体験・石臼で粉挽き体験・紙芝居・発電・工作など

## ②向島用水路のまちあるき

メンバーが作成した用水路マップを元に、日野の歴史と用水路の価値を発見しながらまち歩きを企画・実施。

## ③学校施設などと連携した水車で精米体験

米作り授業のある小学校5年生を対象に、水車で精米・脱穀(モミスリ)・製粉など、米作り体験授業のサポート

## ④ポータブルな小型水車の製作と、水車小屋以外の用水路での水車体験実施

「イモ洗い水車」を2基製作し、他団体などのイベント時に用水路で里芋やじゃがいもなどを洗ってピーアール。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

貴団体の助成金で購入した精米体験用の道具(伝統的な曲げ木のフルイなども)がそろい、殺風景だった水車小屋がミュージアムとしてグレードアップしました。展示については日野市の許可をいただき、毎回スタッフが自宅から運んでいた道具も小屋に設置することができ、気軽にイベント開催できるようになりました。まち歩きを含めたイベントの実施回数と参加者は下記のとおり。(詳細は別紙活動記録参照)

・精米体験イベント	実施回数:4回	参加者数:266名
・まちあるきイベント	実施回数:4回	参加者数:150名
・イモ洗い水車体験イベント	実施回数:3回	参加者数:62名

日野市内外で活動が認知され、他団体より見学や共催依頼も増えました。今年度協力した団体は、「潤徳小学校」「日野市立第五幼稚園」「国立ボランティアセンター」「浅川潤徳水辺の楽校」「日野市環境情報センター」「多摩ブランド国際化推進会」「C-PLANT」など。外国人や学生団体の参加もあり、次年度も見学を依頼されています。

#### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

水車本体の老朽化と浅川の水量減少に伴い、向島用水路での水車が回転しづらい状況になってきています。日野市には水車の付け替えを要望していますが、財政面からすぐには実現が難しい状況です。そこで当会で応急補修を行いました。今年度の精米体験4回のうち、浅川の導流堤の決壊など水量の確保が難しかった2回は水車が動かず、パソコンと大型画面を持参して過去の動画を投影することで水車の動きと音を体感していただきました。水車で精米できなくても、粳すりや石臼による米粉体験など幅広く展開し、市民や子供たちに米作りの基礎知識を伝承しています。向島親水公園としての水車小屋の維持管理は市も協力的ですが、水車の付け替え費用約2000万円の費用捻出については難しいところです。税金を使うのであれば、費用対効果や水車の可能性について、市民に理解していただけるよう体験イベントを継続していきたいと思っています。

#### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし



# 日野の水車活用プロジェクト

報告書  
第35回

## まち歩きと水車イベント

日時：平成28年4月24日（日）10:00～13:00 小雨・曇り

場所：向島水車小屋・向島用水・せせらぎ農園

参加者：55名（うち多摩ブランド国際化推進会関係者30名）

スタッフ13名（市川、上野、加地、児山、佐藤、平、多田、長野、長谷川、山田、吉岡、  
青木（南新井自治会）、中島（環境情報センター）

☆みずとくらす・ひのと共催でまち歩きを開催

☆小雨がぱらつき、本来なら雨天中止の様相だったので一般参加者は25名と普段より少なかったが、多摩ブランド国際化推進会関係者30名が水車見学とまち歩きに参加し、賑やかだった。

☆いつもより水量が少なく、水車の回転数21回/分（普段は28回）。2時間20分の精米時間・2回のフルイかけで、約4分付きくらいの精米状況だった。

### 行程

9:00 スタッフ集合。担当者が中心となり準備。精米（上野）、発電（多田）、糺摺り（平）、石臼による米粉ひき（児山）、紙芝居（長谷川）、まちあるき（佐藤、加地、三村、小杉、長野）。長谷川作のテーブル（組立式）2脚を広場に設置したが、小雨のため小屋のテーブルを使用した。

10:00 水車イベント開始。小雨のため、チラホラと親子連れが参加する程度だが、紙芝居後に各々体験していただく。

10:35 外国人13名を含む、多摩ブランド国際化推進会関係者30名が高幡不動尊と取水口を見学後到着。当会の紹介後、紙芝居による水車と精米について長谷川が英語で説明。その後3グループに分けて水車見学・精米フルイ体験・糺摺り体験・発電実験見学を案内。各々の通訳は、多摩国際化推進会メンバー。

11:10 まち歩き参加者のグループは3班に分かれて出発。用水路沿いにせせらぎ農園まで案内したあと、浅川の土手へ。

12:30 浅川土手にてまち歩きは解散。その後水車小屋でスタッフ合流。

13:00 終了。片付け後、高幡のお店にて振り返り会。



水車小屋にて紙芝居



水車小屋にて石臼体験



水車小屋にて糺摺り体験



自作発電機による水力発電の様子。50個のLED電球点灯。



浅川土手をまち歩き

# 粨すり臼

